



連携拠点は2年目を迎えました

松阪地域 在宅医療・介護連携拠点は、在宅医療・介護を支える地域の専門職の方々を支援する窓口として設置され、4月で2年目を迎えました。

引き続き在宅医療・介護の連携推進に取り組んでいきますので、どうぞよろしくお願いいたします。

今年度の大きな取り組みの一つとして、在宅医療・介護を支える専門職同士が連携しやすい環境づくりを目指して、松阪地域 在宅医療・介護連携ハンドブック(仮称)の作成を企画しています。連携のための基本的なことを“提案”というかたちでまとめたハンドブックには、連携を図る上で心掛けたいマナーやエチケット、入退院時の流れ、連携に役立つ資料などを綴っていく予定です。今年度の多職種勉強会等の場を活用しながら、たくさんの意見や思いを吸い上げ、松阪地域ならではのハンドブックをみなさんと一緒に作り上げていきたいと思ひます。

それから、まだまだ知られていない連携拠点のPRにも力を入れていきます。多くの専門職の方々に知っていただけるように取り組んでいきますのでよろしくお願いいたします。



参考までに…
他の地域でも連携のためのエチケット集やガイドラインが作られています。関心をお持ちの方は、ぜひ検索してみてください。

在宅医療連携推進
「よこすかエチケット集」

名古屋市中における
在宅医療・介護
連携ガイドライン

在宅療養を希望される方の医療・介護サービスや連携について相談窓口を設置しています。電話等でご相談ください。



松阪地域の在宅医療・介護連携推進の取り組みの紹介

松阪地域 在宅医療・介護連携拠点は、松阪市・多気町・明和町・大台町の1市3町により設置されています。そこで、在宅医療・介護の連携推進に向けた各町の取り組みについてご紹介します。

◆多気町◆



多気町では昨年より定期的に薬剤師と介護支援専門員との連携会議を開催しています。町内の介護支援専門員と近隣の調剤薬局の薬剤師が集まり、お互いの仕事を知り、話す機会を持つことで「顔の見える関係づくり」を目指しています。

1回目は「薬剤師の仕事を知ろう」、2回目は「高齢者によく処方される薬の話(糖尿病編)」をテーマに開催し、今後、(心臓病編)(認知症編)…とシリーズ化して進めていく予定です。講話の後、毎回メンバーを変えてグループワークを実施し、和気あいあいとした雰囲気づくりができています。参加した介護支援専門員からは「相談のために薬局に行きやすくなった」「薬を正しく飲めていない方の相談ができた」等の声をいただいています。今後、事例検討を一緒に行っていきたいと考えています。他の職種の方の参加もお待ちしています。

◆明和町◆



身近な多職種の専門性を理解し、顔の見える関係づくりや情報共有していくことが、対象者へのより良い支援につながると考え、毎年夏に在宅医療と介護の多職種連携会議を開催しています。昨年度は「多職種でつなげるケアのかたち」というテーマで、医師、歯科医師、薬剤師をはじめ15職種、総勢75人の参加がありました。事例発表では、様々な職種がどのように関わられるかをワールドカフェ方式で話し合いました。よりたくさんの職種と話をすることで、見方や視点が変わり、勉強になったとの意見がでました。今年度は介護予防に焦点をあて、開催する予定です。

◆大台町◆



平成30年度は、「医療と介護のガイドマップ」を作成し住民の皆様様に配布後、町内の各集会所で詳しく説明を行いました。また、身近なところで専門職の方々の相談にのってもらえるように、大紀町・大台厚生病院と連携し「奥伊勢在宅医療介護連携支援相談窓口」を大台厚生病院内に設置しております。また、顔の見える関係づくりを目的に3者で多職種参加の研修会等を2回開催し、アンケートを行いました。その結果、「医療職同士・医療職と介護職間の連携がとれていない」という結果がでたため、その点を重点課題として今年度は取り組みを行っていきたくて考えています。

第10回 多職種勉強会を開催しました！

2/1(金)に『看取りを迎える家族の“ゆらぎ”を多職種でどう支えていくか』をテーマに多職種勉強会を開催しました。医師、看護師、介護支援専門員の方をはじめ、臨床検査技師や消防士の方々にご参加いただき、総勢153名が集まりました。



話題提供では、最近よく耳にする『ACP(アドバンス・ケア・プランニング)』にも触れ、藤井整形外科胃腸科の藤井秀子先生より『救急搬送と延命治療のため看取れなくなったケースについて』の事例紹介をしていただきました。看取りが近づくにつれてゆれ動く家族の思いや自宅で看取ることの難しさ、医師としての苦悩や葛藤など複雑な思いも触れながらお話いただきました。

グループワーク1つ目では自分が大切にしている人生観や価値観について、「最後に食べたいものは何か」、「財産処理を託すなら誰か」、「大切な人の最期の場面で、その人にしてあげたいことは何か」について話し合っていました。それぞれ個性的な回答が多く、大変興味深かったです。



2つ目には、藤井先生の事例をもとに看取りを迎える家族の“ゆらぎ”に対する多職種での支援の在り方について話し合ってもらいました。在宅で看取ると決めていても様々な理由から気持ちが変わることは当然で、本人や家族の思いを大切にできるよう日頃からACPを実践することや多職種のチームで支えていくことの大切さについて議論が深められていました。

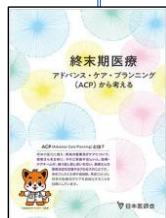


ACP(アドバンス・ケア・プランニング)とは？

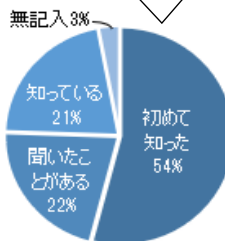
将来の変化に備え、将来の医療及びケアについて、患者さんを主体に、そのご家族や近しい人、医療・ケアチームが、繰り返し話し合いを行い、患者さんの意思決定を支援するプロセスのことです。

患者さんの人生観や価値観、希望に沿った、将来の医療及びケアを具体化することを目標としています。

(日本医師会「終末期医療 アドバンス・ケア・プランニング(ACP)から考える」より抜粋)



ACPについて
ご存知ですか？
(第10回多職種勉強会アンケートより)



第11回多職種勉強会のご案内

日時：令和元年8月23日(金)19:00~21:00

会場：済生会松阪総合病院 7階講堂

今回は、多職種で取り組む「食支援」に関する話題提供を予定しています。そして、はじめに紹介したハンドブックに関する話し合いも取り入れていく予定です。詳しい内容が決まり次第ご案内いたします。たくさんの方々のご参加をお待ちしております。



情報共有システムについて

在宅医療・介護を支える専門職間の情報共有をスムーズにするために、情報共有システム(株)カナミックネットワーク「TRITRUS(トリトラス)」を昨年度から導入し、現在380名を超える方々にご登録いただいています。

利用者さんの日頃の様子を情報共有したり、サービス担当者会議の招集などにご利用いただいています。連携拠点では、利用者さんに関する情報共有とは別に、医療や介護の資源に関する情報などについても随時アップしていきたいと考えています。こんなリストがあると便利、こんな情報がほしいといったご要望がありましたら連携拠点までお寄せください。

また、この情報共有システムをもっと身近に親しんでいただけるように愛称を募集します。愛称とともに愛称の説明(意味・理由)を添えてご応募ください。7月末締め切りです。詳しくは、別紙募集案内をご参照ください。たくさんのご応募をお待ちしております。

情報共有システム『TRITRUS』をご使用のみなさまへ

退職や異動にともなう所属変更があった場合は、ID停止や所属変更の届け出をお願いいたします。

また、それに伴い、部屋の参加メンバーに変更が生じる場合も、お手数ですが手続きをよろしく願います。

必要な書類や説明につきましては、システム内の『連携拠点さんの部屋』をご参照ください。ご不明な点がありましたら、下記までご連絡ください。



あとながき 🎵🎵🎵🎵🎵🎵

松阪地域 在宅医療・介護連携拠点
連携拠点は2年目を迎えました。1年かけてヒヨコくらいになったでしょうか。令和を迎え、気づけば今年も半分が過ぎます。連携拠点のさらなる成長のため、引き続き皆様のご指導をよろしくお願いいたします。次の発行は冬頃を予定しています。

松阪地域 在宅医療・介護連携拠点

〒515-0076 松阪市白粉町363番地

(松阪地区医師会館1階)

TEL:0598-25-3070 FAX:0598-25-3071

メール:ks-shien@city.matsusaka.mie.jp

◇月~金 9:30~16:00◇

(祝日・年末年始を除く)